

開南大学 留学報告書

総合管理学部 総合管理学科4年 園田雪乃

1. 初めに

私は2025年9月から2026年7月までの約10か月間、台湾の開南大学へ交換留学生として留学しました。留学前は海外生活への期待がある一方で、語学力や異文化環境に適応できるかという不安も抱えていました。しかし、現地での生活を通じて多くの出会いや学びに恵まれ、語学力だけでなく人間的にも大きく成長できた10か月間になったと感じています。

本報告書では、①学習面、②キャンパスでの生活、③台湾での生活、④留学を通して得た学びについて報告します。



2. 学習面について

留学期間中は、年間で約30科目を履修しました。授業は主に英語で開講される International Honors Program (IHP) の科目を中心に受講し、中国語の授業も履修しました。

最も印象に残っている授業は「Small Business Management」です。この授業では、チームごとに実際の起業を想定し、事業内容だけでなく、財務計画や資金調達方法まで具体的に考え、一つのビジネスプランを完成させました。前期を通してプロジェクトを進め、最後には英語でプレゼンテーションを行いました。

話し合いや発表はすべて英語で行われたため、最初は思うように自分の考えを伝えられず悔しい思いをすることもありました。しかし、その経験を通して「間違いを恐れることよりも、自分の考えを伝えようとする」ことが大切だと学び、積極的に発言するよう心掛けました。異なる国籍や価値観を持つメンバーと議論を重ねたことで、多角的な視点から物事を考える力も身に付いたと感じています。



一方で、最も苦労したのはビジネス科目の筆記試験でした。試験範囲が広いだけでなく、「なぜそう考えるのか」「自分ならどのように行動するか」といった考えを英語で記述する問題が多く出題されました。そのため、知識を身に付けるだけでなく、相手に伝わる文章の書き方まで意識しながら学習を進めました。

また、日本の大学と比べてプレゼンテーションやグループワークが非常に多く、講義を受けるだけではなく、授業においても自分の考えを発信する機会が数多くありました。そのため、主体的に授業へ参加する姿勢の大切さを実感しました。

さらに、教員と学生の距離が非常に近いことも印象的でした。先生方は交換留学生である私たちを気に掛け、学業面だけでなく生活面まで親身にサポートしてくださいました。困っていることがあれば気軽に相談できる環境だったため、安心して学ぶことができました。

3. キャンパスでの生活について

留学中は大学近くのアパートで一人暮らしをしていました。最初は海外での生活に不安もありましたが、少しずつ現地での暮らしにも慣れ、自分のペースで生活できるようになりました。

大学内で特にお気に入りだった場所は図書館です。広々とした学習スペースが整っており、課題や試験勉強の際によく利用していました。また、学内にはゆっくり休憩できる場所があまり多くなかったため、多くの学生が図書館で勉強をしたり、友人と過ごしたりしていました。

現地学生との交流も非常に充実していました。台湾には日本文化が好きな学生が多く、話しかけてくれることも少なくありませんでした。また、IHPの学生とは履修する授業が似ていたため、グループワークを重ねる中で自然と友人が増えていきました。

大学ではさまざまなイベントが開催されていました。淡水や十分へのバスツアーをはじめ、学内バスケットボール大会なども定期的に行われており、私も積極的に参加しました。イベントを通して授業以外でも多くの友人ができ、ホームパーティーなどにも参加することができ、留学生生活をより充実したものにすることができました。



4. 台湾での生活について

休日は友人と食事や観光へ出掛けたり、一人で街を散策したりして過ごしていました。留学中には台北、台中、台南、高雄、九份など台湾各地を訪れ、それぞれ異なる街並みや文化を楽しむことができました。

中でも最も印象に残っているのは高雄への旅行です。現地で仲良くなった台湾人の友人の家族旅行に招待していただき、桃園から台中、台南、高雄まで一緒に巡りました。観光ではなかなか体験できない現地の家庭の温かさや文化に触れることができ、私にとって忘れられない思い出となりました。

また、台湾の食文化も大きな魅力でした。特に豆花、火鍋、地瓜球が大好きになり、何度も食べに行きました。食を通して台湾の文化や人々の生活を知ることができたことも、留学生活の楽しみの一つでした。

語学面では、英語・中国語ともに大きく成長したと感じています。英語は、以前は間違いを恐れて発言をためらうことが多くありました。しかし現地では、間違いがあっても笑われることはなく、「伝えようとする姿勢」を大切にしてくれる環境でした。その経験から、自分の考えを臆することなく伝えられるようになりました。

一方、中国語は渡航前には全く話せませんでした。最初は自分の語学力の低さに落ち込み、不安を感じることもありました。が、授業や日常生活を通して少しずつ聞き取れるようになり、最終的には日常生活で困らない程度まで身に付けることができました。

留学生活において、多くの方が気になるのが経済面だと思います。私の場合、家賃は月額4～5万円程度で、食費や光熱費、日用品などの生活費は月3～5万円程度でした。台湾は外食文化が発達しており、学生向けの食堂やローカルなお店を利用することで、日本と比べて食費を抑えながら生活することができました。また、公共交通機関も充実しており、交通費も比較的安価でした。

留学前には航空券やビザの取得、健康診断などの準備費用が必要となり、これらを含めた10か月間の総費用は、およそ80～120万円程度だったと思います。旅行や交際費によって個人差はありますが、私は台湾各地への旅行にも積極的に参加したため、その分の費用も含まれています。

また、私は熊本県立大学から月額8万円の奨学金を受給していました。さらに、次年度以降の派遣学生からは支給額が月額9万円に増額される予定と伺っています。この奨学金のおかげで経済的な負担が大きく軽減され、アルバイトをすることなく勉強や現地での活動に集中できる環境が整っていました。留学を考えている方は、大学の奨学金制度についても事前に確認しておくことをおすすめします。



5. 最後に

この10か月間の留学生活を通して、語学力の向上だけでなく、自分自身の考え方にも大きな変化がありました。

もともと人と関わることは好きでしたが、留学を経験したことで「もっといろいろな場所へ行き、もっと多くの人と出会いたい」という気持ちが以前よりも強くなりました。自分から一歩踏み出して行動したからこそ、日本では出会えなかった人々や異なる価値観に触れることができ、人とのつながりの大切さを改めて実感しました。

そして、この留学を通して私が最も強く感じたことは、「挑戦が後悔に変わることはない」ということです。渡航前は楽しみよりも漠然とした不安の方が大きく、本当に自分が海外で生活できるのか何度も悩みました。しかし、勇気を出して一歩踏み出したからこそ、多くの出会いと学びを得ることができ、今では心から「留学して本当に良かった」と思っています。勇気が必要な挑戦ほど、自分に返ってくる学びや成長は大きいということを、この10か月間で実感しました。

これから留学を考えている後輩には、渡航前に中国語の基礎だけでも学んでおくことをおすすめします。日常会話で使う表現を少し知っているだけでも、現地での生活はぐっと過ごしやすくなります。そして、失敗を恐れず積極的に人と関わり、さまざまなことに挑戦してください。その経験は必ず自分自身を成長させ、一生の財産になると思います。